

記者レポート

報いき活き  
かみかも  
がでできる  
まで

昨年12月下旬、市内の住民自治協議会の広報・情報発信部会が開催する意見交換会に、自治会紙づくりのお手伝いをするため出席した市役所広報担当職員は、ほかの住民自治協議会が発行した自治会紙に見入る2人と出会いました。

熱心な2人組

2人の名前は、小原嘉之さんと楳根大介さん。2人とも、3月に上加茂地区住民自治協議会（加茂町河井、加茂町山下、加茂町知和、加茂町青柳町内会が組織）が創刊

を予定している「広報いき活きかみかも」の編集委員を代表して自治会紙の作り方を学ぶためにこの意見交換会に参加していました。会が始まると、熱心にメモを取る姿が印象的で、既に自治会紙を発行しているほかの協議会の担当



▲ほかの住民自治協議会の広報担当者（左）の話を熱心に聞き入る楳根大介さん（中央）と小原嘉之さん（右）

者に「どんな記事を載せればよいか。記事の集め方はどうすればよいか」など、質問を投げ掛けていました。この熱心な2人を追跡取材することになりました。

何を伝えるか、何を載せるか

意見交換会を終えた後、2人はほかの新聞編集委員と一緒に上加茂地区住民自治協議会の役員からの意見を参考にしながら、編集作業を始めました。

「創刊号にどんな話題を載せれば、みんなに読んでもらえるか。読んだ人に地域や世代間のつながりの大切さを分かってもらうには、どんなことを伝えていけばいいか。」などを話し合っています。

そして、創刊号は上加茂地区の話題や地域に伝わる伝承行事、各町内会の自慢などをメイン記事にすることにしました。

さらに、それぞれの記事をどの町内会に割り当てるかを決めて、各町内会の担当者に原稿を依頼しました。

やがて、各町内会の担当者からの原稿が出揃うと「見出しをどうつけるか。文章はこれでよいか。レイアウトはどうするか」などを細かく検討していきました。

創刊号、いよいよ発行

3月下旬、創刊に向けて編集作業が佳境に入ったこの日、4人の



▲最終校正作業をする創刊号の新聞編集委員



▲第2号のレイアウトを練る新聞編集委員の皆さん

新聞編集委員は、記事や写真が紙面に割り付けられた仮刷り原稿の最終校正作業を行っていました。原稿の前に、紙面全体のバランスやレイアウトなどを確認していきます。その原稿を見せてもらうと、地域の伝承行事の由来や昔の写真などが織り込まれた、とても興味を引くものでした。

た創刊号が完成しました。より良いものを目指して 9月上旬、第2号発行に向けての編集会議が開かれていました。今回から、地域の話題や町内会自慢などに加えて、新たに地域の行事予定などを掲載することになりました。自治会紙を、より良いものにしようと意見を交わす編集委員の皆さんの姿に、地域づくりに対する熱い思いの一端を見たように感じました。

編集者の声

地域の話題を共有してほしい

上加茂地区住民自治協議会 新聞編集委員の皆さん

上加茂地区住民自治協議会でさまざまな取り組みを行っていく中で、各町内会の行事や出来事などを知ってもらうことも大切なことだと考え、自治会紙を発行することになりました。

編集作業に入ると、どんな記事を載せるかなど、記事選びや話題探しに苦心しました。そんな中、記事を寄稿いただいた方には、大変、感謝しています。この自治会紙が地域の共通の話

読者の声

地域の話題をもっと知りたい

赤野美代子さん（加茂町知和）

上加茂地区に自治会紙が発行され、とてもうれしく思っています。上加茂地区の各町内会には、もともと自治会紙がなく、この自治会紙ができたおかげで各町内会の行事や伝統文化などを詳しく知ることができるようになりました。また、このことによって、新たな人の交流やふれあいが増えるの



前列左から、楳根大介さん、小原利彦さん、小原嘉之さん。後列左から、能勢信一さん、國米彰さん、中井明さん

題となつて、今まで知らなかった地域のことを知ってもらい、地域間のより深い交流のきっかけになれば良いなと思っています。

ではないでしょうか。

新聞編集委員の皆さんや記事を書く方は、大変かもしれませんが、とても楽しみにしているので、頑張ってくださいね。

